

# 元気な川崎！ 活き活き川崎区！

## 市政だより

2019  
新春号

# 川崎市議会議員 林 としお



新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いで健やかに新年を迎えられたことと存じます。

川崎市の昨年を振り返ってみますと、2月にJR川崎駅の東西をつなぐ北口通路や北改札が供用開始となり、4月には市内初の本格的なコンベンションホールとなる「川崎市コンベンションホール」が武蔵小杉に完成、6月には殿町国際戦略拠点キングスカイフロントに、世界初の水素ホテルである「川崎キングスカイフロント東急REIホテル」が開業するなど、本市はさまざまな記念すべき出来事がありました。また、11月には川崎フロンターレがJリーグで見事2年連続の優勝を達成しました。

一方で、7月に西日本豪雨災害が発生し、9月には最大震度7を記録した北海道胆振東部地震が発生するなど各地で大きな自然災害が相次いで発生した年でもありました。被災された方々に対しまして心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

川崎市も自然災害への対応が大きな課題となっています。豪雨災害への対応としては、今年度末には大師河原貯留管が完成し稼働する予定になっていますが、さらなる浸水被害軽減対策や豪雨災害への備えなど、引き続き災害に強い川崎市のまちづくりに向けた取り組みを精力的に展開して参ります。

私は、市民・働く者の立場に立って、「子供からお年寄りの皆さんまで誰もが安心して安全に暮らせる街づくり」に向けて、市議会の役割・責務の十分な認識のもとに、総合的な視点にたって誠心誠意取り組んでいく所存です。

最後になりますが、本年が皆様にとりまして、幸多き年になります事を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



# 川崎市議会第4回定例会を終えて

「平成30年第4回川崎市議会定例会」が11月26日から開催され12月19日に閉会となりました。

みらい川崎市議会議員団では、代表質問を12月6日に行い、「平成31年度予算編成について」「川崎駅南口改札新設について」「市政におけるAIの導入について」などをはじめ、市政一般や提出された議案について質問しました。

また、今定例会に提出された「平成30年度川崎市一般会計補正予算案」や「川崎市老人いこいの家の指定管理の指定」など41件の議案について審議の結果、全議案とも原案通り可決・決定をし、「小児がんの治療等特別な理由で抗体が失われた場合のワクチン再接種制度の整備を求める意見書」など3件の意見書案についても可決・決定をしました。

市議会報告として、林敏夫が12月18日に行いました一般質問の概要などを報告させていただきます。

## 〈会派代表質問 トピックス〉

### ■ 川崎駅南口改札新設について

**質問** 川崎駅南口改札 新設についてうかがいます。

川崎駅西口大宮町A-2地区では、JR東日本による西口開発計画の本体工事が着手されました。客室数300室のホテル棟と、就業人数8,000人程度のオフィス棟の建設が進んでいます。

また、川崎駅東口では川崎ルフロンが水族館や東口最大級のスーパーの誘致など2020年夏までの開業を目指す事が明らかになり、多くの集客が期待されています。

今後、川崎駅南側の東西回遊性の向上や、新設されるホテルやオフィス棟への利便性、予想される中央通路やペDESTリアンデッキの混雑緩和について、川崎駅南口改札の新設は喫緊の課題であると認識しています。

現在まで、どのような頻度で協議が行われているのかその内容を含めうかがいます。南口改札についての課題と新設に向けた展望についてもうかがいます。

次に、南口改札の新設により、自由通路としての役割を果たすためには、現状の東西連絡歩道橋について、どのような条件整備が必要と考えられるのかうかがいます。



川崎駅西口開発計画  
敷地北東側から望む外観イメージ

**回答** (まちづくり局長) はじめに、JR東日本との協議状況につきましては、北口通路供用開始後、本年6月に行った歩行者交通量調査の結果などの情報共有や意見交換を行うとともに、本年11月の意見交換の中では、同社から駅構内の流動調査を行う予定をうかがったところでした。今後はこれらの調査結果や、同社が進める大宮町地A-2街区の開発事業など、さまざまな開発動向等を踏まえながら、定期的な意見交換を継続して行っていきたいと考えています。

次に、東西連絡歩道橋につきましては、一般的には、これを自由通路とする場合、当該施設の耐久性を踏まえつつ、想定される利用者数に応じた必要幅員の検証などを行うこととなりますが、まずは南口改札の必要性について、同社と継続して意見交換を行っていきます。

## 〈一般質問要旨〉

### ■ 避難訓練について

**質問** 本市では、市民参加型の避難訓練として、津波ハザードマップの浸水想定地域となっている川崎区の各小・中学校を拠点として、平成24年から毎年「津波避難訓練」を実施しています。

避難訓練は、より実践的な訓練が必要となりますが、本市の現状の取り組みについてうかがいます。



**回答** (危機管理監) 津波避難訓練につきましては、浸水想定の高い地域から順次、実施しております、平成30年度までに10校の避難所対象エリアで実施したところです。

内容といたしましては、対象となる地域の自主防災組織や学校PTAと連携し、津波警報発表時の行動や津波避難施設の場所及び避難経路を確認するとともに、津波に関する防災講座などを実施しております。

今年度は、12月9日に新町小学校において実施し、300名を超える方々にご参加いただくとともに、参加者の一部の方には、昨年度から研究を開始した「川崎臨海部におけるICT活用による津波被害軽減に向けた共同プロジェクト」の実証実験として、スマートフォンの避難支援アプリを活用した避難を体験いただきました。

また、津波浸水想定地域内にある学校においては児童・生徒を対象に、事業所においては従業員の方を対象とした津波避難訓練を実施しているところであります。

**質問** 11月に川崎市地域防災計画風水害対策編(修正素案)が示されました。水防法の改正や、避難勧告等に関するガイドラインの改定等を踏まえて取りまとめられていますが、具体内容についてうかがいます。また、今後避難訓練にどのように反映していくのか見解をうかがいます。

**回答** (危機管理監) 平成28年台風第10号により、高齢者施設において、適切な避難行動がとられなかったことを重く受け止め、国において検討を重ね、高齢者等が避難を開始する段階であるということを確認するため、「避難準備情報」を「避難準備・高齢者等避難開始」に変更し、避難勧告と避難指示との違いがわかるように、避難指示の場合のみ「避難指示(緊急)」と名称変更し、併せて避難勧告等の発令時に住民に求められる行動を、地域防災計画において修正するものであります。

風水害時の避難においては、市民の皆様1人ひとりが避難情報に関する用語の意味を正しく理解した上で、地域のリスクを知り、正確な情報を入手することが、いざいという時の適切な避難行動につながるものと考えていることから、各区での総合防災訓練や出前講座などあらゆる機会を活用し、啓発に取り組んでいきます。

**質問** 本年は西日本豪雨災害など、河川の氾濫により多くの被害が発生したこともあり、洪水被害に対する市民の防災意識は高まっていると思います。本市として、洪水避難訓練の実施を行っていく必要があると考えますが見解をうかがいます。

**回答** (危機管理監) 風水害時におきましては、一人ひとりが正確な情報を得て正しく判断し適切な避難行動をとることが重要であると考えており、例えば洪水ハザードマップ等を活用して、近くにお住まいの方同士が話し合うなど、地域の洪水による浸水リスクや避難方法等について、共通認識を図ることも、有効な訓練の一つであると認識しているところであります。

現在、国では、スーパーコンピューターを導入して豪雨15時間前の予測ができるように台風の影響や集中豪雨が発生する可能性をより早い段階から把握し、早期の避難勧告など自治体の防災対応の迅速化を可能にする取組や大雨防災情報について警戒レベル1～5の段階に区分して早期避難を促す取組の検討に着手したところであります。

今後とも、風水害時の適切な避難行動について啓発に努めるとともに、国の動向を注視しながら有効な訓練手法についても他都市の事例も参考に検討していきます。

**要望** 川崎市は、多摩川と鶴見川に挟まれており、集中豪雨による洪水被害の発生リスクを抱えています。洪水避難訓練の実施に向けた検討を強く要望します。

## ■ 自転車の交通事故防止に向けた対応について

**質問** 本市の交通事故発生の状況についてうかがいます。また、川崎区の特徴点についてうかがいます。

**回答** (市民文化局長) はじめに、市内の交通事故発生状況につきましては、本年10月末現在の概数になりますが、前年同時期比で、件数は228件減の2,695件、死者数は5人減の13人、負傷者数は244人減の3,100人となっております。

なお、高齢者関係事故は90件減の813件で約30.2%、子ども関係事故は19件減の242件で約9.0%、二輪車関係事故は75件減の761件で約28.2%、自転車関係事故は98件減の820件で約30.4%となっております。

次に、各区の交通事故の特徴等につきましては、川崎区は、市内で交通事故発生件数が最も多く、特に自転車関係事故が約39.1%を占めております。

今後とも、風水害時の適切な避難行動について啓発に努めるとともに、国の動向を注視しながら有効な訓練手法についても他都市の事例も参考に検討していきます。

**質問** 本市の自転車に関係した交通事故の発生状況を踏まえ、どのような対応を行っているのか具体的にうかがいます。また、自転車交通事故防止に向けた安全対策に関する今年度の予算額をうかがいます。

**回答** (建設緑政局長) これまで、自転車事故の発生状況に応じて、自転車道の整備やナビラインの設置などの安全対策に取り組んできましたが、平成27年2月に市民文化局より提供された過去5年分の自転車関係事故データから、事故の多発箇所など32か所を抽出して、「川崎市自転車通行環境整備実施計画」を策定し、整備を進めているところであります。

自転車交通事故防止に向けた安全対策としましては、自転車通行環境整備事業費により整備を進めており、今年度の予算額は、約3,500万円で、幸区の南幸町2丁目交差点や、武蔵溝ノ口駅周辺の市道小杉管線へのナビラインの設置、新川通りの歩道部における自転車通行帯の工事などの経費を計上しています。



**質問** 川崎市については、自転車関係事故が他の区に比べても多い状況にあり、平成28年172件、平成29年235件、平成30年257件(10月末)となっています。自転車関係事故データを活用した、さらなる取り組みの強化が必要と考えます。見解と対応についてうかがいます。

**回答** (建設緑政局長) 川崎市につきましては、平坦で自転車利用者が多く、他の区に比べ事故が多く発生しているものと考えており、これまでも約12キロメートルの自転車通行環境整備を行ってきました。

特に、川崎駅東口周辺では歩行者と自転車が集中しており、安全で快適な通行空間の確保が課題となっています。このため、平成22年8月に「川崎駅東口周辺地区総合自転車対策基本計画」を策定し、自転車通行環境整備やマナー啓発活動などに取り組んでいるところでありまして、引き続き、新川通りや小川町地区において、整備を進めていきます。

また、平成30年3月に策定した「川崎市自転車利用基本方針」に基づき、川崎駅周辺などにおいて、自転車通行環境の確保に向け、自転車関係事故データ等を活用するなど、新たな自転車ネットワーク計画を今年度中に策定していきます。

今後につきましても、自転車、歩行者、自動車の誰もが道路を安全、安心、快適に利用できるよう、自転車通行環境の整備を推進していきます。

**要望** 地域の方々からは、生活道路などにおいても安全対策を求める声が上がっております。

先日も労働会館前の交差点で、自転車と歩行者が輻輳(ふくそう)して、危険で対策をしてもらいたいとの要望が地元からありました。関係部署に連絡し、川崎区役所道路公園センターにおいて、迅速な対応をしていただいたところです。このように地元にある小さな危険にも目を向け、地域に方々の声を聞いて、1つでも危険除去に取り組んで行くべきと考えています。

そのためには、交通管理者や地域を守る区役所道路公園センターと連携し、迅速に対応していただくよう要望します。

## 『市政を語る新春の集い』のご案内

林としおの活動報告と、日頃よりご支援・ご指導いただいております皆様との懇親を深めたいと存じますので、お誘いあわせの上お越しいただければ幸いです。

会場 川崎商工会議所 2階 KCCIホール  
日時 2019年2月13日(水) 17時30分受付 18時開会  
会費 4,000円(当日受付にて)  
申込先 〒210-0835 川崎市川崎区追分町6-2 エステート森101

林としお事務所

電話：044-223-6625 FAX：044-223-6635

(平日のお問い合わせは10時～17時30分。留守の際は留守電に伝言をお願いします)



※この行事は、政治資金規正法第8条の2に規定する催し物です。